

平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

飯田市

○計画期間:平成26年4月～平成31年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点(平成30年3月31日時点)の中心市街地の概況

平成26年度からスタートした第2期計画は、第1期の「人々の交流によるにぎわいの回復」「環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現」という二つの目標に加え「地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造」を加えた三つの目標を設定し、これらの目標達成のために様々な事業を展開した。おおむね計画通りに推移している。

歩行者優先道路活用事業として実施している「ゆるキャラ®天国」や「竹宵祭り」また、人形劇のまちづくり推進事業である「飯田丘のまちフェスティバル」など、りんご並木を中心に展開している様々なイベント、事業も徐々に根付いてきており、全体的に来場者は増加傾向にある。

各事業においては、実行委員会に新たな商栄会やグループの参加もあり、事業の盛り上がりを見せている。中でも、一昨年より地域ブランド開発事業として実践している「飲み歩きイベント「飯田丘のまちバル」」は、中心市街地の飲食店56店舗が参加し、飯田の文化である人形劇や音楽セッションを取り入れた新たな夏の定番事業として、まちに賑わいと活気を生みつつある。

平成27度の開園以来最高の入場者数となった飯田市立動物園は、今年度も入場者数を維持し、中心市街地のにぎわいに寄与している。今後の課題として、各施設と連携し、この親子連れを中心市街地へ誘導する仕掛けづくりが必要である。

中心市街地に従来からある商店街では、空き家・空き店舗が目立ってきており、その再生対策として平成28年度より「まちなか創業空き店舗活用事業」を実施している。特に若い世代の創業者を対象に、商店街の空き店舗を活用するよう補助金を支給し誘導するこの取り組みは、飯田商工会議所等の創業相談窓口と連携し、10件の相談のうち、4件の空き店舗解消に結びつき、まちの活力の向上に寄与している。

中心市街地の玄関口であるJR飯田駅周辺に於いては、中心市街地の3地区における地域の基本(将来)構想の策定が開始されたことから、飯田市版総合戦略「未来デザイン2028」の精神に則り、まずは中心市街地3地区の基本構想を策定した上で、中心市街地活性化に向けた課題の抽出を行い、次期中活計画の策定を行う判断材料として行きたい。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(中心市街地区域)	平成25年度 (計画期間開始前年度) 基準日 H26.1.1	平成29年度 (フォローアップ年度) 基準日 H30.1.1
人口	9,404	8,853
人口増減数	-178	-117
社会増減数	-58	-6
転入者数	282	281

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

※別添のとおり

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
人々の交流による にぎわいの回復	歩行者・自転車通行量 (土曜日)	7,500 人/日 (H24)	8,600 人/日 (H30)	6,538 人/日 (H29)	①	③
	歩行者・自転車通行量 (平日)	9,300 人/日 (H24)	10,300 人/日 (H30)	9,316 人/日 (H29)	①	③
地域の魅力再発見に よる文化的な暮らしの創造	文化・交流施設の 利用者数(年間)	264,000 人/年 (H24)	290,000 人/年 (H30)	285,624 人/年 (H29)	①	①
環境に配慮し、安心 安全な暮らしの実現	中心市街地における 都市福利施設の 利用者数(年間)	112,000 人/年 (H24)	123,000 人/年 (H30)	156,629 人/年 (H29)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、平日、土曜日共に目標値を下回る。特に土曜日における歩行者等の数値は目標値 8,600 人/日の 76%であった。これは、通行量調査を実施した基準日が雨であり、その影響が表れたものと考えられる。併せて、中心市街地を回遊する電気小型バスの故障により、10月からの運行が実施できなかった影響も大きい。

目標達成の見通しとして、平成 27 年度に開園以来最高の入園者数となる飯田市立動物園が、今年度も引き続き入園者数を維持しており、中心市街地への来訪者をけん引している。また、中心市街地のシンボルであるりんご並木をステージにした歩行者優先道路活用事業や人形劇まちづくり推進事業においては、事業内容の充実を図ることにより来場者数は増加している。

これに合わせ、故障していた電気小型バスも平成 30 年 4 月から運行を再開することから、まちなか回遊における事業の相乗効果により目標達成が見込まれるものと考えられる。

「文化・交流施設の利用者数」については、目標値まであと一步のところである。平成 29 年度は、来訪者をけん引する飯田市立動物園において、入園者を見込んでいた 3 連休が雨に当たることの影響が大きく、入園者数が前年度対比の 95% 止まりであった。中央図書館、美術博物館においては各施設のイベント内容の充実を図ることで入館者数を維持しており、引き続き、着実な事業展開を実施し目標達成に向けて取り組む。川本美術館においては入館者数が減少傾向であった。施設を結ぶ交通手段である電気小型バスの有効活用や、魅力ある講座の充実を図りながら、

施設の利用者増加へ結ぶ仕掛けづくりを展開していく。

「都市福祉施設の利用者数」については、平成 29 年度の実績値が 156,629 人/年と、目標値である 156,629 人/年を達成することができた。特に、飯田市公民館の施設利用者数が前年対比の 120%と、施設の利活用における効果が表れている。まちなか健康福祉拠点活用事業においては、受け皿である民間事業者の努力により施設利用者数は着実に増加している。引き続き各事業の実施を確実に展開し、利用者数の増加に努める。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

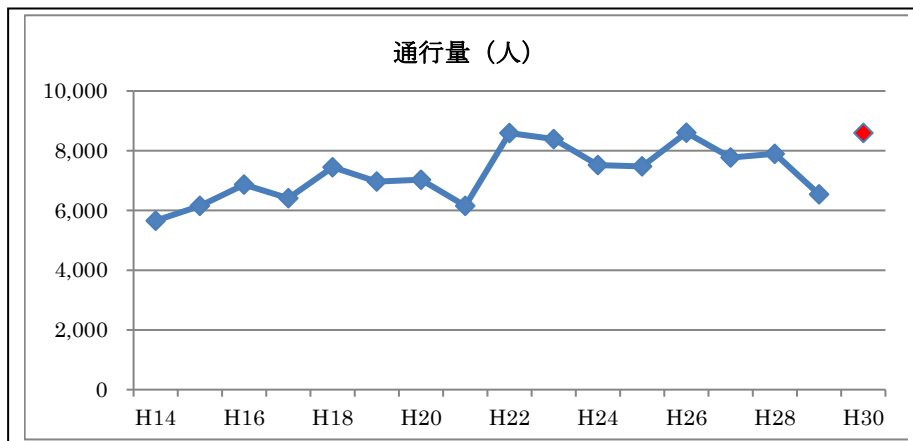
目標の「人々の交流によるにぎわいの回復」においては、計測日が悪天候により指標が未達成であった。達成においては、毎月開催している歩行者優先活用道路事業の来街者数の増加や、平成 27 年度に過去最大の入園者数を記録した飯田動物園が来街者を堅持していることから、ここを訪れる来街者を目標達成可能と見込み、引き続き最大限の努力を行う。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

●調査結果の推移（人々の交流によるにぎわいの回復）

「歩行者・自転車通行量（土曜日）」※目標設定の考え方基本計画 P98～P101 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H24	7,500 (基準年値)
H26	8,604
H27	7,772
H28	7,898
H29	6,538
H30	8,600 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

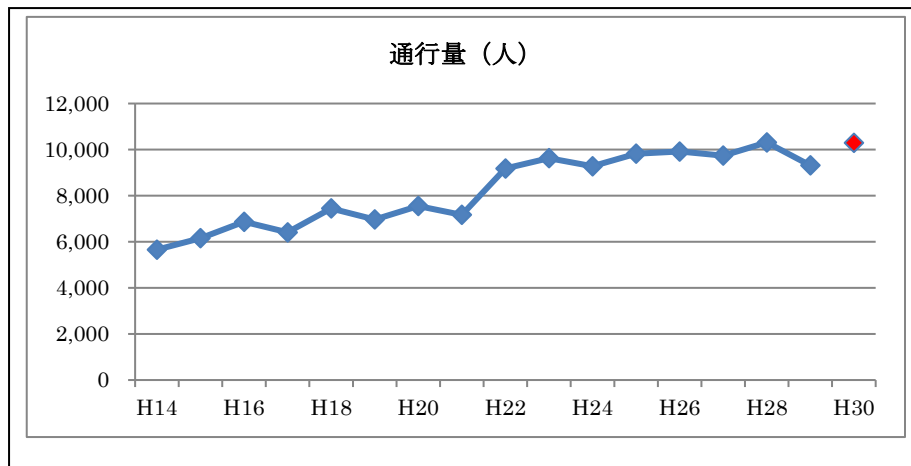
※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

●調査結果の推移（人々の交流によるにぎわいの回復）

「歩行者・自転車通行量（平日）」※目標設定の考え方基本計画 P102～P104 参照

●調査結果の推移



年	(単位：人/日)
H24	9,300 (基準年値)
H26	9,916
H27	9,738
H28	10,312
H29	9,316
H30	10,300 (目標値)

※調査方法：計画地点での調査員による通行量調査

※調査月：10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 平日4地点

(駅前中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 飯田駅周辺及び駅前ストリート事業 (事業主体名：飯田市、飯田観光協会、JR 東海)

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	交通の結節点である飯田駅のまちなか誘客拠点としての機能、駅周辺及び駅前ストリートの観光情報案内所、店舗等誘客施設、駐車場、駐輪場、トイレ等を総合的に整備する事業。
事業効果及び進捗状況	事業の取り組み効果により、平成29年度の駅前における土曜日の歩行者類通行量は4,028人/日と目標値である3,600人/日を達成することができた。平日の歩行者類通行量は目標値の4,300人/日に対して3,578人/日であり、日常における中心市街地への来訪者や歩行者はまだまだ少ない状況である。今後も、誘客性や回遊性を高める歩行者優先活用事業で実施しているソフト事業(イベント)等に努め、目標達成につなげたい。

②. りんご並木周辺商業施設等整備事業 (事業主体名：(株)飯田まちづくりカンパニー)

事業完了時期	平成30年度【実施中】
事業概要	りんご並木ストリートマネジメント計画に基づき、りんご並木周辺の空き店舗等を中心市街地に投資意欲を持つ民間事業者とマッチングさせることで有効活用を図る。
事業効果及び進捗状況	平成26年11月に空き店舗を活用してオープンした「並木横丁いこいこ」の継続した賑わいが牽引し、平成29年度のりんご並木における平日(2,030人/日)の通行量は増加傾向であり事業効果を発揮している。「まちなか創業空き店舗活用事業」により、りんご並木周辺における空き店舗において1件の新規出店者とのマッチングができた。土曜日の通行量(970人/日)においては、計測日が悪天候により、未達成であるが、年間の週末を通じて開催している歩行者優先活用事業における来街者は増加している。

③. まちなかの回遊性を創出する事業

(事業主体名：飯田市、NPO いいだ応援ネットイデア、NPO 飯田人形劇センター)

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	飯田駅前にある「駅前案内所」、りんご並木周辺にある「まちなかインフォメーション」を活用し、りんご並木賑わいづくり事業など 5 つの事業によって回遊性創出を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度の平日、土曜の歩行者自転車通行量は計測日が悪天候により、目標未達成であったが、年間を通じて行った歩行者優先道路活用事業の各イベントでは、1 イベントを除き、天候にも恵まれ多くの来場者（92,800 人/年）があった。引き続き、各案内施設の連携やイベントにより目標達成に向けて取り組む。

④. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：（株）なみき）

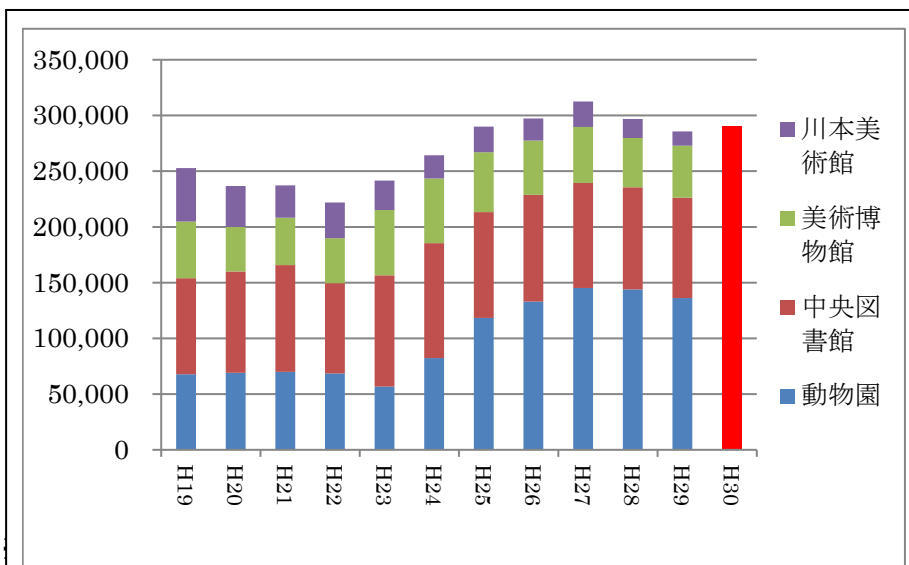
事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	銀座堀端ビル等を拠点とし、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用する。
事業効果及び進捗状況	事業展開や各種教室など民間事業者の経営努力により、近隣住民だけでなく市街地外からの来訪者もできている。平成 29 年度の利用者は 58,256 人/年と前年比の 152.9%であり市街地の賑わいに寄与している。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。目標指標においては計測日における天候の影響により左右されるが、毎月開催している歩行者優先道路活用事業の来街者の増加を始め、来街者をけん引する飯田動物園の入園者数も堅持していることから、今後も事業内容の充実を検討しながら、より多くの賑わいをつくっていききたい。

●調査結果の推移（地域の魅力再発見による文化的な暮らしの創造）

「文化・交流施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P106～P108 参照



年	(単位：人/年)
H24	264,000 (基準年値)
H26	297,341
H27	312,507
H28	296,832
H29	285,624
H30	290,000 (目標値)

※調査月：平成 30 年 4 月（平成 29 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：川本喜八郎人形美術館、飯田市美術博物館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 文化的・商業的イベント実施事業

(事業主体名：飯田市、飯田商工会議所、飯田やまびこマーチ実行委員会、オーケストラと友に音楽祭実行委員会、獅子舞フェスティバル実行委員会、飯田丘のまちパル実行委員会)

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	やまびこマーチ、オーケストラと友に音楽祭等の文化事業やイベントを継続的に実施するとともに、新しいまちなかイベントや文化事業などを創出、実施していく。
事業効果及び進捗状況	各館において定期的に魅力あるイベントの開催や共催を実施することで、年間入場（園）利用者数は、川本人形美術館 12,713 人、美術博物館 46,705 人、中央図書館 90,001 人、動物園 136,205 人となった。引き続き、事業内容の充実を行い、目標達成に向けて取り組む。

②. 美術博物館改修事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【未】
事業概要	美術博物館常設展示室の全面改修と展示物更新について検討・実施する。
事業効果及び進捗状況	常設展示室の改修事業を H30.12 月から H31.1 月を予定している。改修工事は計画遅れとなっているが、他のイベント等の充実を図り、入館者数の増加を行っている。

③. 地域ミュージアムを活かしたまちづくり事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、地域全体をミュージアムと捉え、知的交流拠点となるまちなかの創出、回遊性を向上させるソフト事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	美術博物館のプラネタリウムにおいて地域の自然、文化、歴史などを題材にしたオリジナルの番組を 18 番組制作し上映している。1 日平均来場者数は 46.0 人と目標値 50.0 人には達していないが、今後は、平成 30 年度に計画される施設改修事業を始め、人の流れを生み出している動物園との連携事業を計画することで目標達成に向けて努力をしていく。

④. 扇町公園（動物園）活用事業（事業主体名：環境文化教育機構（株））

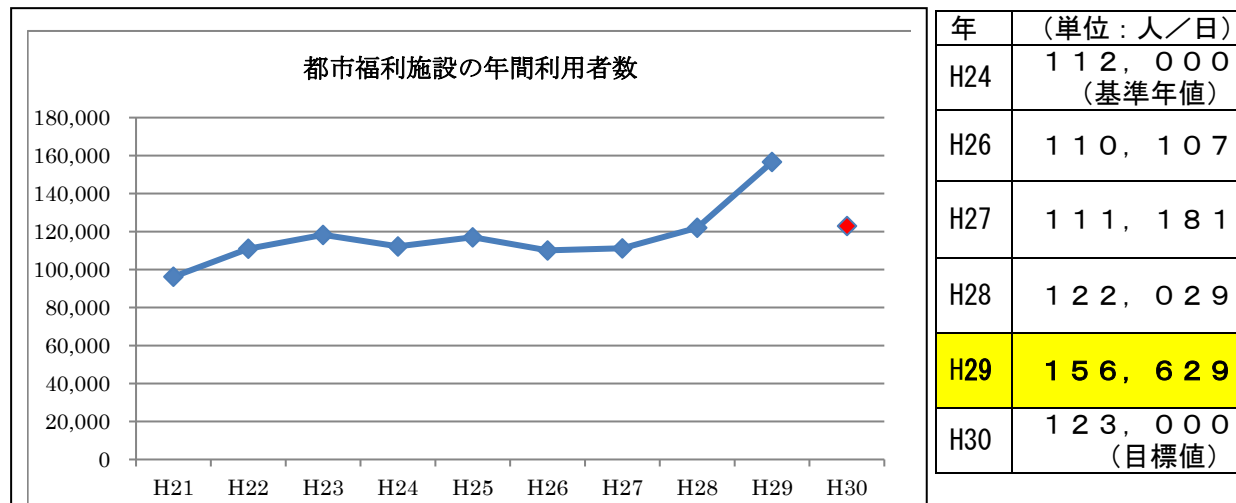
事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	再整備された動物園を活用しながら、様々な体験教室、講座を実施したり、公園全体を使ったイベントの実施や、他の文化施設、商業施設等と連携した事業を実施する。
事業効果及び進捗状況	改修前（H23）の入園者数は 56,710 人/年であった施設が、改修後（H26）には 133,000 人/年（234.5%増）と、その効果を出している。常時開催される体験イベントを始め、月 2 回程度の特設イベントを展開することで、今年度も入園者数 136,205 人/年を確保した。また、まちなかの拠点施設を繋げる電気小型バス運行事業と併せて、動物園を起点とする まちなか回遊を生み出す基盤ができつつあり、目標達成を見込めるものとなっている。

●目標達成の見通し及び今後の対策

一部の施設で来場者の減はあるものの、主要事業は概ね順調に進んでいる。平成 29 年度の指標は目標値の 95%と計画実施から最も低い値であったが、指数の約 5 割を占める飯田動物園の入園者が、連休における天候に左右されたことと、まちなかの各施設を結ぶ電気小型バスが行楽シーズンの 10 月に故障した要因が大きく、今後は、各イベント内容の充実を図るとともに、平成 30 年 4 月運行再開の電気小型バスの修繕を行うことで、目標達成に向けて取り組む。

●調査結果の推移（環境に配慮し、安心安全な暮らしの実現）

「都市福利施設の利用者数（年間）」※目標設定の考え方基本計画 P109～P111 参照



※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：平成 30 年 4 月（平成 29 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市民館、りんご庁舎、カーブス、(株)なみき

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちなか健康福祉拠点活用事業（事業主体名：(株)なみき）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	銀座堀端ビル等を拠点とし、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用する。
事業効果及び進捗状況	銀座堀端ビルで提供する健康福祉サービスの平成 29 年度の年間利用者は 58,256 人であり、増加の傾向にある。引き続きサービスの機能強化を図り目標達成に向けて取り組む。

②. 環境配慮型まちづくり事業（事業主体名：飯田市、おひさま進歩エネルギー(株)）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	りんご並木のエコハウスなどを活用し、環境に配慮した豊かな住まい方を提案したり、低炭素社会実現のためのまちづくりを学んだりする場を提供する。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度の訪問者数は 6,060 人/年と、環境に関心を持つ市民等が継続して訪れている。引き続き、低炭素社会実現のまちづくりを学ぶ場として、施設の活用を図り、目標達成に向けて取り組む。

③. まちなか住宅開発事業

(事業主体名：社会医療法人 栗山会、おひさま進歩エネルギー(株))

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	暮らしやすいまちを創造するため、これまでのまちなかの居住の成果を継承しつつ、環境に配慮し、且つ人の暮らしに合った効率のよい集合住宅等の開発を研究・実施する。
事業効果及び進捗状況	酒造跡地を活用したサービス付き高齢者住宅の整備を進めており、平成 29 年度は 38 戸の集合住宅が供給された。この施設には、地域包括ケア複合施設として、診療所、通所リハビリテーション、フィットネスクラブ、訪問介護の他、地域で共有できるスペース（さろんおかのうえ）を設けてあり、今年度より利用が開始されている。住宅・通所リハに関しては、スタートに出遅れがあったものの、H30.3 時点で計画通りの利用者数となっている。診療所・フィットネスに関しては計画割れしており、現在、事業主体である医療法人において対策を講じている。また、施設には、売電収入を地域に還元する仕組みを導入した太陽光発電施設を設置し、今年度は 3 者による「地域貢献提供書」を締結し、売電収入の 5 万円/年間を 20 年間に渡り地域に還元する仕組みが開始された。

④. 旧飯田測候所活用事業（事業主体名：飯田市）

事業完了時期	平成 30 年度【実施中】
事業概要	歴史的建築物としての外観を復元しつつ、旧飯田測候所の歴史、飯田市の環境施策の情報発信及び集会室等の設置によるコミュニティ活動の拠点化を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度の環境学習セミナー34 件、参加者 632 人/年と環境施策の情報発信の場として、順調に参加人数を伸ばしている。地元の施設利用においては 21 件、利用者 889 人/年と、昨年度を下回った。これは、まちなか住宅開発事業に設置された地域共有スペースへ利用者が動いたこともあり、今後は、それぞれの施設の特徴を生かした地域コミュニティ活動の場として、棲み分けを図っていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業はおおむね順調に推移しており、目標達成は可能だと考える。福利施設の年間利用者数は一部において前年対比で減っている施設もあるが、総体では増加傾向である。特に、まちなか健康福祉拠点活用事業における健康福祉関連サービスの利用者が増加しており、今後もさらに民間活力を大いに活かしながら、それぞれの事業を精査しつつ進めていき、目標達成に寄与していきたい。